

9月21日から10月31日は「鳴門市認知症施策普及・啓発推進月間」

認知症



無料

10月1日(木)

### ふれあいコーナー

10:00～12:00

大塚製薬認知症ケア支援VR体験  
血圧測定・ベジチェック  
介護保険・もの忘れ相談コーナー  
スマホ相談会  
介護者家族の会相談コーナー  
当事者ギャラリー

### 基調講演①

#### 『認知症と薬の話』

登壇者

10:30～12:00

徳島県薬剤師会 理事・災害対策委員会 委員長  
あけぼの調剤薬局 開設者

管理薬剤師 川根 正則 先生

### 映画上映会

日本中を 13:30～15:10

深い感動で包んだ  
ドキュメンタリー

『ぼけますから、パート1  
よろしく  
お願いします。』



©2018「ぼけますから、よろしくお願いします。」製作・配給委員会

### 基調講演②

#### 『認知症の早期発見と治療介入』

登壇者

15:30～16:30

医療法人久仁会 鳴門山上病院  
院長 山上 圭 先生

「当事者ギャラリー」同時開催！

9月は『世界アルツハイマー月間』

認知症啓発パネル展：鳴門市役所2階市民ギャラリー  
9月24日(木)～10月9日(金)まで開催！

展示時間：8:30～17:15

このまちで

認知症になっても、

笑顔で暮らせる街へ

認知症は、誰にとっても身近な  
「自分のこと」「大切な家族のこと」になりました。  
「認知症になると、何もできなくなってしまうのかな？」  
そんな不安やイメージを少し変えてみませんか？  
正しい知識や工夫を知ること、自分らしく安心して  
暮らすヒントがきっと見つかります。ぜひこのイベントで、  
新しい一歩を一緒に踏み出してみましょう！

10月2日(金)

### ふれあいコーナー

10:00～12:00

大塚製薬認知症ケア支援VR体験  
血圧測定・ベジチェック  
介護保険・もの忘れ相談コーナー  
とくし丸 POP UP コーナー  
当事者ギャラリー

### 基調講演③

#### 『認知症に対する運動の効果』

登壇者

10:30～12:00

徳島県理学療法士会 会長  
徳島文理大学 教授

鶯 春夫 先生

### 映画上映会

13:30～15:10

母が認知症になっても、  
父は代わらぬ愛を注ぐ

『ぼけますから、よろし  
お願いします。  
～おかえりお母さん～』



パート2

©2022「ぼけますから、よろしくお願いします。～おかえり、お母さん～」製作委員会

会場：鳴門市役所2階

10  
ポイント！

ご来場の方には  
『日に日になるポ』の  
ポイントを付与いたします。



イベントについてのお問い合わせ

鳴門市基幹型地域包括支援センター TEL 615-1417



## 鳴門市認知症啓発イベント

日時：令和8年10月1日（木）午前10時～午後4時30分

2日（金）午前10時～午後15時10分

場所：鳴門市役所 2階 大会議室、201 会議室

### 認知症 とともに暮らそう このまちで となると

認知症は、誰にとっても身近な「自分のこと」「大切な家族のこと」になりました。

「認知症になると、何もできなくなってしまうのかな？」そんな不安やイメージを少し変えてみませんか？

正しい知識や工夫を知ること、自分らしく安心して暮らすヒントがきっと見つかります。ぜひこのイベントで、新しい一歩を一緒に踏み出してみましょう！

＊「鳴門市認知症啓発イベント」にご来場の方には

『日に日になるポ』のポイントを10ポイント付与いたします。

### 《ふれあいコーナー》

#### ・10月1日(木) 10:00～12:00

大塚製薬認知症ケア支援VR体験、血圧測定、ベジチェック、  
介護保険・もの忘れ相談コーナー、スマホ相談会、  
介護者家族の会相談コーナー、当事者ギャラリー

#### ・10月2日(金) 10:00～12:00

大塚製薬認知症ケア支援VR体験、血圧測定、ベジチェック、  
介護保険・もの忘れ相談コーナー、とくし丸POP UP コーナー、  
当事者ギャラリー

### 《基調講演》＊要予約

#### ・10月1日(木) 10:30～12:00

『認知症と薬の話』

徳島県薬剤師会 理事・災害対策委員会 委員長

あけぼの調剤薬局 開設者

管理薬剤師 川根 正則 先生

#### ・10月1日(木) 15:30～16:30

『認知症の早期発見と治療介入』

医療法人久仁会 鳴門山上病院 院長 山上 圭 先生

#### ・10月2日(金) 10:30～12:00

『認知症に対する運動の効果』

徳島県理学療法士会 会長

徳島文理大学 教授 鶯 春夫 先生

《映画上映会》＊要予約 両日定員 60 名様

・10月1日(木) 13:30～15:10

『ぼけますから、よろしくお願いします』パート1

・10月2日(金) 13:30～15:10

『ぼけますから、よろしくお願いします ～おかえりおかあさん～』パート2

**認知症啓発パネル展** ＊「当事者ギャラリー」同時開催

展示期間：令和8年9月24日（木）～10月9日（金）まで

展示時間：午前8時30分～午後5時15分まで

場所：鳴門市役所 2階 市民ギャラリー

お問合せ・各ご予約

鳴門市基幹型地域包括支援センター 電話 615-1417

令和元年度  
文化庁映画賞  
文化記録映画大賞

ぴあ映画  
初日満足度1位  
(11月3日ぴあ調べ)

第36回  
日本映画  
復興奨励賞

第92回  
キネマ旬報ベスト・テン  
文化映画3位

文部科学省  
特別選定映画

第43回  
日本カトリック  
映画賞

厚生労働省  
推薦映画

2018年度  
全国映連賞  
特別賞

認知症の母と耳の遠い父と離れて暮らす私 —

# ぼけますから、



ドキュメンタリー映画

## よろしくお願いします。

広島県呉市。泣きながら撮った1200日の記録



監督・撮影・語り

ひとり娘

### 信友直子

プロデューサー：大島 新 濱 潤 共同プロデューサー：前田亜紀 堀 治樹 山口浩史  
編集：目見田 健 実景撮影：南 幸男 音響効果：金田智子 ライン編集：池田 聡 整音：富永憲一  
配給宣伝協力：ボレボレ東中野 ウッキー・プロダクション 製作・配給：ネツゲン フジテレビ 関西テレビ

2018年/日本/カラー/102分/©「ぼけますから、よろしくお願いします。」製作・配給委員会

映画公式サイト  
[bokemasu.com/bokemasu1](http://bokemasu.com/bokemasu1)



カメラを向け、初めて気づいた。両親がお互いを思い合っているということ。

# 大反響のテレビドキュメンタリー、 待望の映画化。



壊れていく母、その母を一人で支えようと決める父。  
それぞれの心の動きは決して老いていない。  
ぼけてなお、母はずっと母であり、弱ってなお、  
父はずっと夫なのである。

—— **阿川佐和子** (作家・エッセイスト)

あれだけできた母が、何もできなくなった。  
いくら、娘がそれでいいと言っても、母の納得はない。  
母とは、誰かの為になる喜び。  
母が何もできなくても、いてくれる感謝のある娘と夫！  
なんと、よく撮ったね！  
映像に生きたあなたを育てたのは、このボケた母ちゃんや。  
ボケてええで！

—— **綾戸智恵** (ジャズシンガー)

認知症の妻と 90 歳を超えた夫との日々の生活を  
追い続けたドキュメンタリー映画、  
なぜかそこには悲壮感、悲哀感はない。  
幸せな老夫婦の姿だけが印象に残った心打たれる真実のドラマ。

—— **今井幸充** (認知症専門病院 和光病院院長)

「…物語です」という、冒頭の監督ナレーション。  
その優しいオブラート無しでは、  
僕はラストまで直視できなかったかも。  
監督自身も、完成に辿り着けなかったかも。  
それぐらい、実は苛烈な問題提起作。

—— **下村健一** (ジャーナリスト)

長寿の哀しみと喜びが両方、画面からどっと溢れ出る。  
映像で綴られた老人文学であり、家族文学……  
監督の臍物の如き究極の私小説を眼前に突きつけられた。

—— **中瀬ゆかり** (編集者・コメンテーター)

親が子を思う愛。子が親を思う愛。  
すべてを受け入れるという何より難しく何より美しいもの。  
そんな映画を見れた私はなんて幸せなんだ。  
本当に本当に、私、涙が止まらなかった。

—— **長与千種** (マーベラスプロレス代表)

さらけだす老いの修羅。  
この映画は、父と母と娘の凄絶な  
「共同作品」であり「競作」だ。

—— **平松洋子** (エッセイスト)

連れ添って生きて、互いに老いていく…。  
娘の「私」がカメラを通して伝えてくれたその姿は、  
切なさとおおしさに満ちて、胸に深く響きました。

—— **渡辺一枝** (作家)

推薦コメント (五十音順)



2018年に動員20万人を超える大ヒット  
日本中を深い感動で包んだあの物語には続きがあった!

アルツハイマー病を患った母を  
98歳になった父が懸命に介護する日々。  
そんな中、新型コロナの波が押し寄せて  
事態は急変する。



監督・撮影・語り  
& ひとり娘  
信友直子

# ぼけますから、 よろしく願いします。 ～おかえりお母さん～

母が認知症になっても、父は変わらぬ愛を注ぐ  
結婚生活60年を過ぎた90代夫婦の生きる道

2022年/日本/ドキュメンタリー/101分/ビスタ/2.0ch 監督・撮影・語り: 信友直子 プロデューサー: 濱田 大島新 堀治樹 制作プロデューサー: 稲葉友紀子  
編集: 目見田健 撮影: 南幸男、河合輝久 音楽効果: 金田智子 ライン編集: 池田聡 監音: 富永憲一 製作プロダクション: スタッフラビ  
製作: フジテレビ ネットゲン 関西テレビ 信友家 配給: 宣伝: アンブラッド © 2022「ぼけますから、よろしく願いします。～おかえりお母さん～」製作委員会 [www.bokemasu.com](http://www.bokemasu.com)



人が生きて老いてゆく先には、  
必ず死と別れがあります。  
でも人生の最終章は悲しいだけではありません。  
お互いを思いやり、かわす笑顔もありました。  
今回もまた、誰もが自分のこととして  
感じてもらえる物語になったと思います。

信友直子 (監督・撮影・ひとり娘)

口コミが広がり異例のロングランになった  
『ぼけますから、よろしくをお願いします。』(18)

あれから4年。90代夫婦の愛の形を描いた感動の物語がふたたび始まる。

本作では前作をひも解きながら、その後の夫婦の物語を描く。老老介護、認知症、看取り。日本全体が抱える高齢化社会のリアルな問題をありのままに、かつ、時にユーモラスに綴っていく。認知症とともに生きることの大変さや家族の苦勞に共感する一方で、こんな風に生きられたらと憧れを抱かせてくれるような夫婦の姿があった。

広島県呉市。信友直子監督が描くのは年老いた自らの父と母。アルツハイマー型認知症を発症した母の症状が進むにつれ、父は95歳にして人生で初めて家事を覚え、妻を支えている。現実を丹念に見つめた前作『ぼけますから、よろしくをお願いします。』は、令和元年度文化庁映画賞・文化記録映画大賞、キネマ旬報ベスト10文化映画3位、ぴあ映画の初日満足度では1位になるなど高い評価を得た。



東京で働くひとり娘の「私」(監督・信友直子)は広島県呉市に暮らす両親を1作目完成後も撮り続けた——



2018年。父は家事全般を取り仕切れるまでになり日々奮闘しているが、母の認知症はさらに進行し、ついに脳梗塞を発症、入院生活が始まる。外出時には手押し車が欠かせない父だったが、毎日1時間かけて面会に行き、母を励まし続け、いつか母が帰ってくるためにと98歳にして筋トレまで始め周囲を驚かせる。しかし2020年春には新型コロナウイルスが猛威をふるい面会すらままならなくなる。

ぼけますから、  
よろしくをお願いします。  
～おかえりお母さん～

監督・撮影・語り：信友直子 プロデューサー：落河 大昌典 監製：堀江 順作 プロデューサー：稲妻友紀子 編集：日見田 一博 音楽：南幸男 河合保久  
監製：金田哲子 ライン編集：池田 豊 監製：宮永 一 製作プロダクション：スタジオアビ 製作：フジテレビ ネットワーク：関西テレビ 信友直子 配給：宣伝：アンパラド  
© 2022「ぼけますから、よろしくをお願いします。～おかえりお母さん～」製作委員会 2022年/日本/ドキュメンタリー/101分/ビスタ/2.Dci

bokemasu.com @bokemasukara2

